

## 「ラボサイドにおける吸着義歯の現状 ～製作におけるポイントを整理する～」

佐藤 大介

下顎総義歯が確実に吸着するためには、可動粘膜による義歯床全周封鎖が不可欠である。義歯に咬合力が加わると唾液が排出され、義歯内面は一時的に陰圧になり、吸着が完成する。

下顎の封鎖のメカニズムは主に 4 つのタイプの封鎖で成り立っている。①唇頬側の内外側二重封鎖②舌下ヒダ部の内外側二重封鎖③後顎舌骨筋窩部の代償性封鎖④レトロモラーパッド部の内側の接触型封鎖、頬粘膜と舌が接触する外部封鎖である。

私が勤務するラボでは年間 900 を超える総義歯を製作している。その内の 10%が吸着義歯である。吸着のメカニズムを理解した歯科医師と歯科技工士が共通の認識を持ち、概形印象時から積極的に連携をとり吸着義歯を製作することで、結果的に高い術者満足と患者満足を得ている。

実際の技工を行うラボサイドとしては、吸着のメカニズムを理解している歯科技工士が必要なランドマークをすべて含む概形印象に対して適切なるう堤付き各個歯トレーを製作することが吸着義歯の成功のポイントになっていると感じている。ランドマークが不明瞭な場合の対応策も重要である。

そこで本講演では、吸着義歯製作時における注意点やチェアサイドとの共通認識など、臨床例を交えながらラボサイドがどのようなことを考え、製作しているかについてお話ししたい。

## 「機能的で異物感の少ない部分床義歯の設計」

小海忠士

近年、高齢化社会における義歯の需要が多くなりつつあります。多くの方が部分床義歯から初めて義歯というものを体験します。しかし、やはり義歯という異物を入れることによる異物感や抵抗、それによるストレスというものを少なからず感じると思います。しかしながら口腔内の組織や状態を保護、回復する目的での部分床義歯の役割はとても大きいものになります。

機能的であり異物感は少なく、かつ審美的を念頭に部分床義歯の設計を構築することができれば満足していく結果に近づけると思います。また構造的な設計をすることにより最小限で最大限に機能する部分床義歯の製作をすることができます。義歯を装着することで患者が満足感を得られるように常に考慮しながら技工に取り組まなければいけないと思います。新しく部分床義歯を製作しても基本的な設計ができていなければ逆に残存歯などに過度な負担をかけてしまいます。そういったことが起こらないためにも義歯の設計に基本的な理念を常にもって様々な症例に対処できるようにしなければなりません。

部分床義歯は維持装置や大連結子、小連結子の位置、形状など様々な要素から構成される複雑な補綴物です。製作者だけの観点からの設計ではなく患者に寄り添った義歯を製作することで快適にデンチャーライフを過ごせるようにするにはどうしたらいいか、自身の義歯設計におけるコンセプトを紹介したいと思います。